

3 教育研究

3－1 学校研究全体計画

1 研究主題

児童が主体的に学び、読む力が身につく国語の授業づくり

2 主題設定の理由

本校の教育目標は、「ふるさとを誇りに思い、未来を拓く力をもつ子の育成」であり、健康に気をつけ、自分も周囲の人も大切にできる「いのちを大切にする子」、主体的に学習に取り組み、学び続けようとする「学びを深める子」、新しいことに進んで挑戦し、粘り強く取り組む「笑顔が輝く子」を目指す児童像として、児童、教職員、家庭・地域が連携して学校づくりを進めている。

昨年度より、研究主題を「学ぶ楽しさ、分かる喜びをめざして― 児童が主体的に参加する国語の授業づくり―」として、児童が主体的に参加する授業づくりを目指してきた。「～したい意欲を引き出す・読む力を高める授業づくり」「基礎・基本的な知識・技能を支える取組」「授業力向上のための取組」を研究の柱とし、研究を進めてきた。

一年目の成果として、単元構想シートで設定した言語活動を単元の初めにゴールとして児童に提示することで、児童の「～したい」意欲に繋がった。そして、毎時間授業始めに確認することで、児童もゴールへ向かう過程の中で、本時に学ぶべきことがはっきりし、目的意識をもつことができた。他教科で学んだことを生かした言語活動を設定することにより、教科横断的な指導をすることができた学年もある。

しかし、授業構想はでき、児童も主体的に参加しているにも関わらず、本校の児童は問題の題意を読み取れないなど、読む力が十分に身につけていない。また、アンケート結果から、日々の授業で学んだ力が、児童の実感として得られていないことがわかった。

そこで、今年度は昨年度の研究を土台として、国語科における説明文を中心に取り組み、主体的に学び、読む力が身につくような授業づくりを行っていく。その中で、文章全体の構成を捉えて内容を正確に読み取り要旨を把握すること、また、読み取ったことを意見交流しながら読みを深めより確かなものにすることを目指し、研究を進めていく。児童の「やってみたい」「読んでみたい」「伝えたい」という意欲、そして児童の「楽しい」「分かった」が溢れる学びを大切にし、研究を進めていく。

3 研究構想図



4 研究内容

I. 「～したい」意欲を引き出す授業づくり

- (1) 単元構想シートをもとに、ゴール・つきたい力を明確に
 - ・昨年度、「主体的な学び」を引き出すためには、教師が児童に付けたい力・ゴールを明確にし、見通しをもつことが重要だと考え、本校独自の単元構想シートを作成した。単元構想シートを使って、教材研究をすることで、児童に身に付けたい力を明確にし、見通しをもった学習計画の設定をする。
- (2) ねらいに合った言語活動の設定
 - ・まず、学習指導要領をもとに単元で付けたい力を確認し、児童の実態から指導事項を絞り込み、言語活動を設定する。また、児童の「～したい」につながる言語活動のために、単元名を意欲につながる言葉にすることや、教師の手本が魅力的なものとなるよう意識する。ただし、成果物を作る活動を設定しなければいけないのではなく、「ねらいを達成するために有効な活動」を検討する。
- (3) 児童とともに作る学習計画の設定
 - ・単元の初めに、教師が付けたい力やゴールを明確に示し、目的意識を児童に持たせることで、ゴールまでの過程で必要な学習は何かを考えさせる。毎時間、授業の始めに単元で付けたい力やゴール、前時の学びを振り返ることで、児童の学習意欲につなげる。
 - 低学年：学習すごろく（教師が立てた学習計画）から学習計画に慣れさせる。慣れたところから、穴埋めや短冊に書いてあるものを児童に並べ替えさせるなどで少しずつ考えさせる。
 - 中学年：教師の力を借りながら、少しずつ自分たちで考える。
 - 高学年：付けたい力やゴールを示し、その過程で必要な学習を自分たちで計画する。

- (4) 学びや変容を自覚できる場面の設定

- ・単元の初めと比べて、学習した後ではどんな力がついたか振り返る。
- ・付けた力を生かせそうな場面について具体的に考える。

II. 読む力を高める授業づくり

- (1) 説明文系統表をもとに、学年に応じた指導事項を意識した授業づくり
 - ・学びを定着させるために、既習事項を授業の中で繰り返し使う。
 - ・主語・述語・順序を表す言葉・キーワードに着目するなど、各学年の読み取りの手がかりを指導する。
- (2) 学び合いカードを利用し、ペア・グループ交流する場面の設定
 - ・児童は、学期初めと学期末に、学び合いカードを使って自分の話す力・聴く力を確認する。学級でも、同様に確認し、教師と児童が同じ意識をもって授業に臨む。

Ⅲ. 基礎・基本的な知識・技能を支える取り組み

(1) 基礎学力の定着

- ・しろやまタイムの活用
 - ・授業での学びを定着するため、単元末に「読む力」に取り組む。
 - ・漢字の書く力の定着を図るため、学期に1回、漢字検定を行う。
 - ・文章を書く力、基本的な技能を高めるために、条件作文や視写を10分間で行う。
 - ・基礎学力の定着、自学の質の向上を目的とし、月に一回自学コンテストを行う。
- ・朝の会や朝自習の活用
 - ・語彙を増やすため暗唱を行ったり、読書への関心を高めるためにお勧めの本の紹介スピーチを行ったりする。
- ・読書の充実
 - ・読書好きな児童を増やすために、図書委員会主体となり、先生や図書委員のお勧めの本の紹介に取り組む。
 - ・読書の充実と質の向上を目的とし、週に2回の朝読書、うち1回は職員も一緒に読書する取り組みを行う。

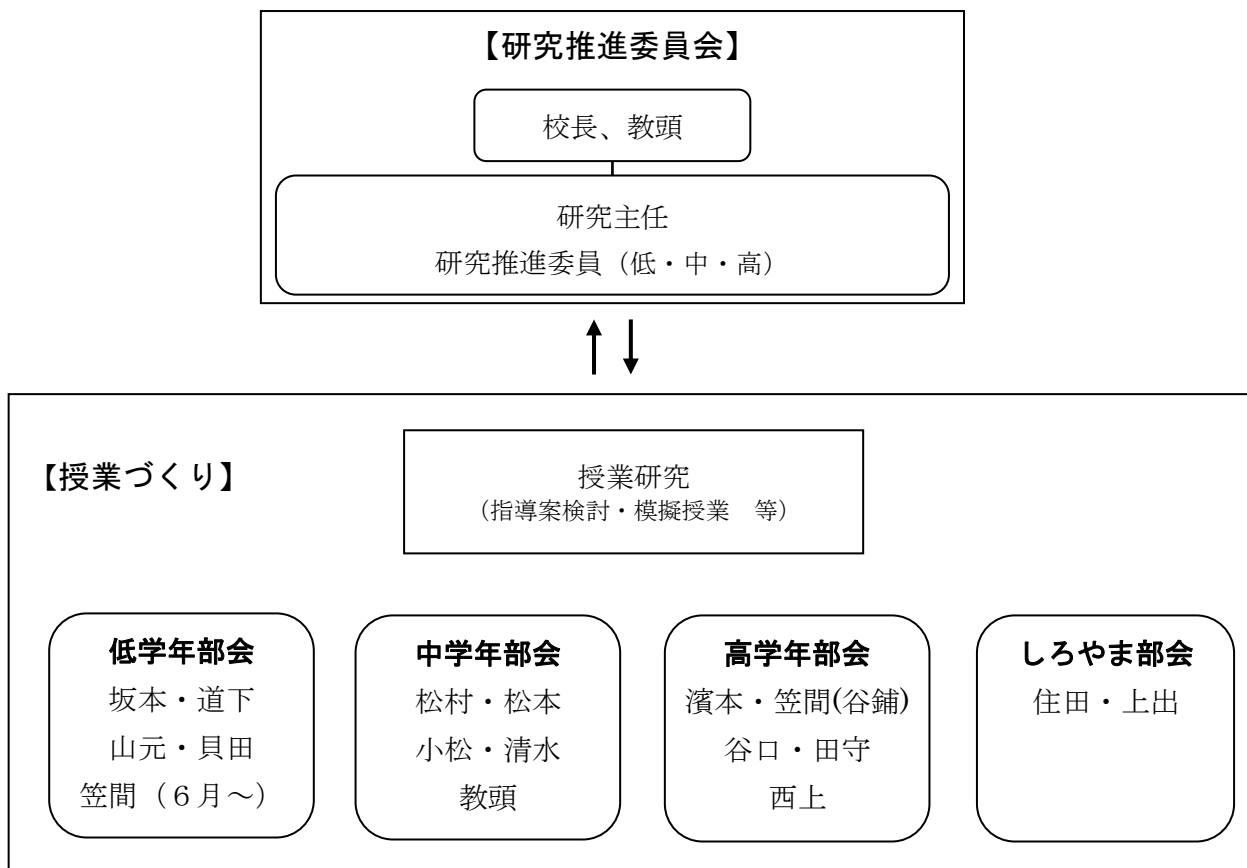
(2) 家庭学習の充実

- ・自学の奨励、質の向上
 - ・月に一度自学コンテストを行う。学級内だけでなく、同学年や一つ上の学年とも行う。
 - ・良い自学は職員室前の廊下に掲示する。
- ・自己調整力を高めるための家庭学習強化週間の実施
 - ・学期に一度、家庭と連携して行う。

5 検証方法

- ・単元末テストや、初見の説明文評価テスト
- ・アンケート（児童・教師）
- ・成果物

6 研究組織



7 研究方法

- ① 研究推進委員が中心となり、各部会の連係を図りながら研究実践を進める。
- ② 研究全体会では、研究授業などについてワークショップ型整理会などを行い、共通理解を図りながら進めていく。
- ③ 授業研究を中心に実践を進めていく。

教材分析 ⇒ 指導案検討 ⇒ (模擬授業) ⇒ (先行授業) ⇒ 研究授業 ⇒ 授業整理会

- ④ 1人1研究授業（全体研究授業または部会授業）を行い、教材研究力・授業力向上に努める。